第８回　メディア委員会

2018年1月22日

資料１　東京2020大会の準備状況

資料２　東京2020参画プログラムの現状

資料３　小・中学生からのポスター企画

資料４　1000 Days to Go!の取組

資料 1

東京2020大会の準備状況について

目次

1．ＯＮＥ　ＴＥＡＭ　ＰＲＯＪＥＣＴ

2．日本の木材活用リレー

3．Tokyo 2020 1000 Days to Go!

4．開会式・閉会式

5．IOC調整委員会公式夕食会（被災地の食材利用）

6．平昌2018大会期間中の主な広報活動

7．Road to Tokyo 2020

1. ONE TEAM PROJECT

ONE TEAM PROJECT

日本を代表するクリエイター＆イノベーターが一丸となって
東京2020大会を盛り上げるプロジェクト

■8月24日より始動、第1弾コンテンツは市川海老蔵氏による「東京2020三年前口上」動画

・海老蔵氏にご自身のブログでご紹介いただいたこともあり、公開から3日でYouTube再生回数が20万回突破
・公開翌日はYouTube日本の急上昇ランキングで全動画中1位を獲得
・蜷川実花理事によるSPECIAL PHOTOも話題化を増幅させ、テレビやスポーツ紙および多数Webメディアが紹介

Photo by Mika Ninagawa

■ 第２弾：野村萬斎氏と清水希容選手による対談動画を公開
■ 第３弾：YOSHIKI氏と山中伸弥氏による対談動画を公開
■ 第４弾：高橋陽一氏への特別インタビューを公開
■ 第５弾：野老朝雄氏と松井冬子氏による対談動画を公開
■ 第６弾：林真理子氏のエッセーを鈴木亮平氏が朗読
■ 第７弾：ISSで活躍中の宇宙飛行士金井宣茂氏による宇宙からのメッセージ（予定）

2．日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

- 全国の自治体から借り受けた木材を使用してビレッジプラザを建設し、大会後に解体された木材を各自治体の公共施設などでレガシーとして活用するプロジェクトを実施

42事業協力者（63自治体）を決定

選手村ビレッジプラザの外観イメージ（上記イメージは、計画途中のものであり、今後変更となる可能性があります）

3. Tokyo 2020 1000 Days to Go!

オリンピック1000日前イベント（10/28）

オープニングを飾る山車の練り歩き（地元町会）

カウントダウン・デーカウンター

パラリンピック1000日前イベント (11/29)

東京スカイツリー®と山車のフォトセッション

セレモニー

1000日前関連イベント(10/28-11/29)

◆ **NHK大阪放送局「千日前でわろてんかギャグ1000発やりなはれ！」**

大阪 千日前商店街の看板

イベント風景
（写真提供：NHK）

◆ **東京2020公認プログラム「ふくしまアイデアコンテスト」**

「ふくしまアイデアコンテスト」の参加者

参加者の学生と審査員のなすびさん

その他、都内区市町村や全国自治体そしてパートナー企業メディア各社等と連携した様々なイベントを展開！！

4．開会式・閉会式

1．基本コンセプト

東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト最終報告

第一章　東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の位置づけ

大会全体の歴史的・社会的意義

歴史的意義

東京1964大会は戦後復興の象徴や経済成長や科学技術の発展の契機となり、経済的・物量的に豊かになり、また、障がいのある人のスポーツを通した社会参加を促すきっかけとなった。
東京2020大会では、50年後、100年後に振り返った際に、心が豊かな幸せな社会、持続可能な社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わる契機となることが求められている。

社会的意義

世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの意義に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などのナショナリズムを超え、障がいの有無にかかわらず、若者を含め皆の参加意識を高め、一体感を醸成することで、世界平和を祈り貢献し続けていくことを目指す。また、アジアの発展と繁栄のために、世界にメッセージを発信していく。

大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

4．開会式・閉会式

1．基本コンセプト

第二章　開会式・閉会式の全体コンセプト

【平和】和を尊ぶ考え方が、分断や対立を超えた世界につながることを示す。

〇世界中の国・地域のアスリートと観客が一堂に集い、分断や対立を超える機会とする。
〇各々の価値観を押し付けることなく、互いに尊重し合うことで調和を図り、積極的に平和をつくり上げていく姿勢を示す。

【共生】多様な違いを認め合い、支え合い、活かし合うことで、新しい価値を生み出す共生社会を目指すことを示す。

〇一人ひとりが異なる存在であり、お互いを認め合い、支え合う寛容さを持つことが、大切であることを示す。
〇異なる存在が交流し、互いに活かし合うことで、新たな価値が生まれ、よりよい社会につなげていく。

【復興】自然災害を乗り越え、諦めることなく次代を創ろうとする姿を示し、世界の人々への勇気へとつなげる。

〇人間も自然の一部であるという考えに立ち、自然に対する畏敬の念を大切にする。
〇繰り返し訪れる自然災害から復興していく過程において、よりよい社会を創ろうとする人間の強さを示し、世界中の被災者の方々へ勇気を伝播する。

【未来】持続可能で、人間性豊かな、新しい時代のスタートラインとする。

〇これから100年の視野を持って、世界中の若者に未来への夢と希望を抱かせるまたとない機会である。
〇地球という限られた環境の中で、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく時代のはじまりを示す。

【日本・東京】歴史の中で培われ、今も生きる日本・東京の美しい感性を大切にする。

〇日本・東京が過去から現代に引き継いできた、しなやかさや美しさを大切にして表現に活かす。
〇日本国内からの視点だけではなく、海外からの視点も取り入れ、世界の人々が日本を楽しむことができるようにする。

【アスリート】スポーツの祭典として、主役のアスリートが安心して参加できる式典を目指す。

〇式典の主役はアスリート。開会式は世界中のアスリートを歓迎、鼓舞し、閉会式は競技を終えたアスリートの健闘を称え、国を超えた交流の輪が広がる場とする。
〇アスリートが安心して開会式・閉会式に参加できるよう、空間的、時間的にもコンパクトな式典運営を心がける。

4．開会式・閉会式

1．基本コンセプト

第二章　開会式・閉会式の全体コンセプト（つづき）

【参画】多くの人々が自分も式典に関わっていると感じられるような、みんなでつくる式典を目指す。

〇多くの人々が、式典づくりやパフォーマンスに参加できる機会をつくることで、多くの交流を生み出す。
〇スタジアム内だけで完結させず、テクノロジーなどを活用して、より多くの人が関わることができる仕組みをつくる。

【ワクワク感・ドキドキ感】熱気や興奮が感じられ、一生に一度の体験となるような機会とする。

〇メッセージを大切にした上で、観客や視聴者に興奮や驚きを提供する。
〇日本や世界の子どもたちをはじめ、人々の記憶に残る開会式・閉会式を目指す。

第三章　4式典の位置付け

4つの式典を一連の四部作と捉え、起承転結となるよう、メリハリを付けて構成する。

（起）オリンピック開会式

・東京2020大会の幕開けの式典として４つの式典の扉とする。
・国内外からの注目度が最も高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
・大会の歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトも活かしていく。

（転）パラリンピック開会式

・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市である。
・互いに認め合い、助け合う共生社会を目指すことを世界に伝える。
・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

（承）オリンピック閉会式

・競技を終えたアスリートの健闘を称える。
・アスリートだけでなく観客も巻き込み、会場を一体化する。
・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。
・次の世代に受け継いでいくべき価値を示す。

（結）パラリンピック閉会式

・東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレである。
・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

４．開会式・閉会式

「東京2020 開会式･閉会式 ４式典総合プランニングチーム」について

- 今般の基本コンセプトにある“４式典を一体と捉えた”基本プランを作成していくため、「**東京2020 開会式･閉会式 ４式典総合プランニングチーム**」を設置。
- まずは基本プランを策定した上で、来夏に４式典の監督を選定し、各々制作に入っていく。

１．基本的な考え方

- 基本コンセプトにおいて、オリンピック開会式からパラリンピック閉会式までの４つの式典を、**バラバラではなく、一連の四部作ととらえていく**との方針が盛り込まれた。
- まずは、この**4式典全体のプラン･ストーリーを作る体制を立ち上げる**こととしたい。
- その際、一個人に頼るのではなく、**チームでの力を活かす**とともに**2020年以降も世界で活躍する世代を積極的に活用**していきたい。
- 上記の考えのもと、以下の観点でチームの人選を進めた。
  - 4式典全体のプランを作り上げていくに当たり、式典が舞台的要素だけでなく、世界中にテレビ ・WEBを通じて放映されることから、映画制作に携わり、**映像とストーリーを統合できる人材**が必要ではないか。
  - 基本コンセプトにある日本･東京の**伝統を演出できる人材**、また、**共生･パラリンピックを表現できる人材**が必要ではないか。
  - 内外の評判を得た**リオ大会のハンドオーバーのチームの知見も活用**すべきではないか。
- ４式典の監督選定に先立ち、総合プランニングチームを立ち上げるのは、東京2020大会ならではの新しい試み。

４．開会式・閉会式

２ チーム編成

次ページ参照

３ 役割

以下の事項について検討し、基本プランとしてとりまとめるとともに、4式典の一体化を図る。
（１）４式典全体で発信するメッセージ・ストーリー
（２）各式典それぞれで展開するメッセージ

４ 期間

2017年12月～

５ 今後のスケジュール

- 2018年夏ごろを目途に、基本プランをとりまとめ、その後各式典の監督を選任する予定。
- 監督は、有識者懇談会及び理事会での審議を経て決定する。

4．開会式・閉会式

東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム 名簿（平成29年12月20日時点）（五十音順、敬称略）

氏　名	肩書等
川村　元気	映画プロデューサー/小説家
栗栖　良依	クリエーティブ プロデューサー クリエーティブ ディレクター
佐々木　宏	クリエーティブ ディレクター
椎名　林檎	演出家 音楽家
菅野　薫	クリエーティブ ディレクター クリエーティブ テクノロジスト
野村　萬斎	狂言師
MIKIKO	演出振付家
山崎　貴	映画監督

5．IOC調整委員会公式夕食会（被災地の食材利用）

- 第5回IOC調整委員会の公式夕食会（復興庁、東京都共催）で、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島の食材を使用したメニューや地酒などの特産品を提供。
- 東京2020大会に関連する会議やイベントなどで、風評被害の払拭につながる取組を進め、復興に関する継続的な支援につなげていく。

※被災地の復興した姿や各地の魅力をどのように国内外に発信するかを考えるため、2018年度のメディア委員会ワーキンググループを被災地において開催するよう調整中。

6．平昌2018大会期間中の主な広報活動

平昌現地　-Tokyo 2020 JAPAN HOUSE-

PyeongChang to TOKYO

つぎは東京！

■目的：　平昌2018大会時に、現地および世界中のオリンピック、パラリンピックファンに東京2020大会及び開催都市東京の魅力を伝え、2020年大会時の訪日促進につなげるため、Tokyo 2020 JAPAN HOUSEを設置する。

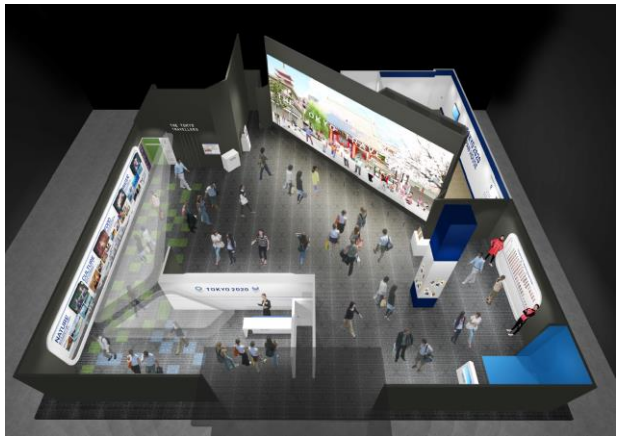
■主催：　東京2020組織委員会、東京都

■場所：　江陵オリンピックパーク内に仮設建物を設置
＊平昌地域には、 JOCがホスピタリティ提供を主目的としたＪＡＰＡＮ　ＨＯＵＳＥを別途設置

■期間：　オリンピック期間　　平成30年2月9日から25日、
パラリンピック期間　平成30年3月9日から18日を想定
※メディア内覧会は平成30年2月8日の実施を検討
＜開設時間＞12:00～20:00（予定）

（別会場メインプレスセンター内に東京2020広報オフィスを設置し海外PR）

外観図


内観図
（俯瞰図）

6．平昌2018大会期間中の主な広報活動

国内 －東京 2020 ライブサイト in 2018 －

■目的：　東京2020大会におけるライブサイトの実施に向けて、運営・実施方法などの課題への対応を検証するとともに、東京2020大会の機運醸成を図ることを目的として、平昌2018冬季大会の開催とあわせてライブサイトを実施

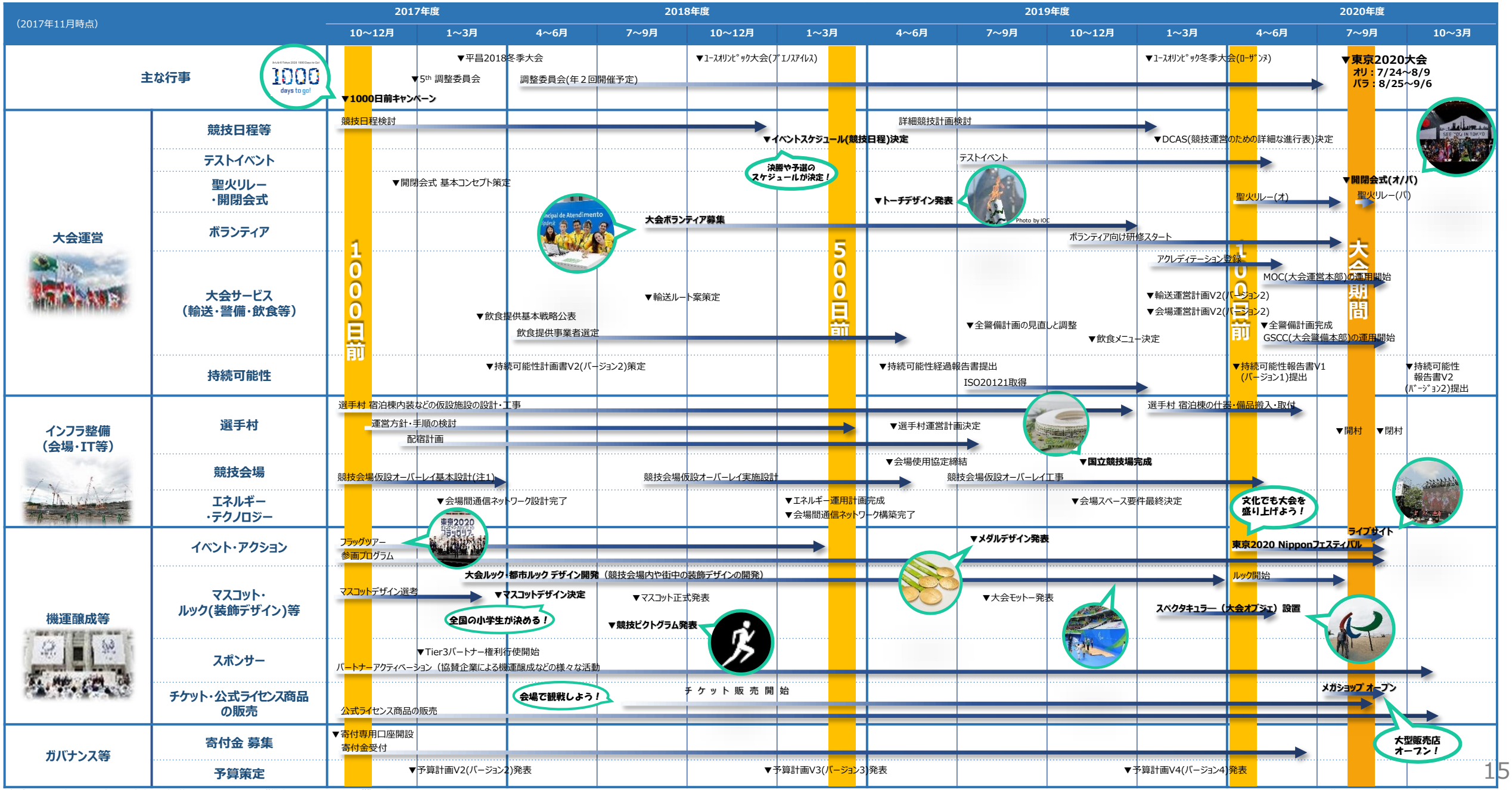
■主催：　東京2020組織委員会・東京都

リオ2016大会時の国内ライブサイトの様子

■実施概要：

オリンピック期間					パラリンピック期間	
2/10（土）～ 2/12（月・祝）	2/17（土）	2/18（日）	2/22（木）～ 2/24（土）	2/24（土）	3/10（土）	3/17（土） 3/18（日）
東京都 井の頭恩賜公園	宮城県 JR仙台駅２階 ｽﾃﾝﾄﾞｸﾞﾗｽ前	福島県 郡山駅 西口駅前広場	東京都 シンボルプロム ナード公園	岩手県 盛岡駅前 滝の広場	熊本県 (仮称)花畑広場	東京都 日比谷公園
開場時間：10:00～17:00（予定）						

7．Road to Tokyo 2020 ～ オールジャパンでの成功に向けて ～



注１）仮設オーバーレイとは、会場を大会使用可能な状態にするための仮設の基礎構造・設備、装置、装具及び機器を指す。

※記載のスケジュールは過去大会等を参考にした目安です。

資料 2

東京2020参画プログラムの現状について

目次

1．オールジャパンでの参画状況

2．参画プログラムの更なる活性化に向けて

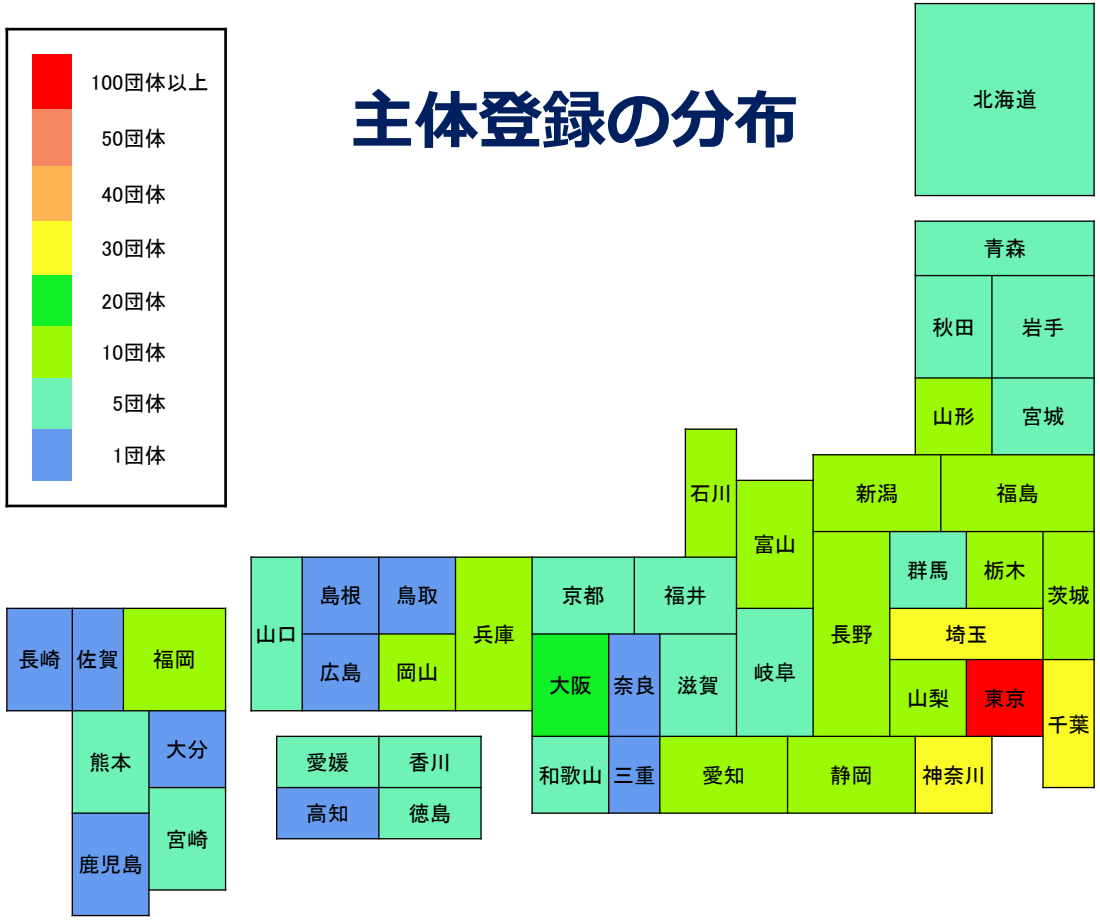
3．東京2020主催アクション（マスコット投票、メダルプロジェクト、文化オリンピアードナイト）

4．アクション事例（復興、オールジャパン・世界への発信）

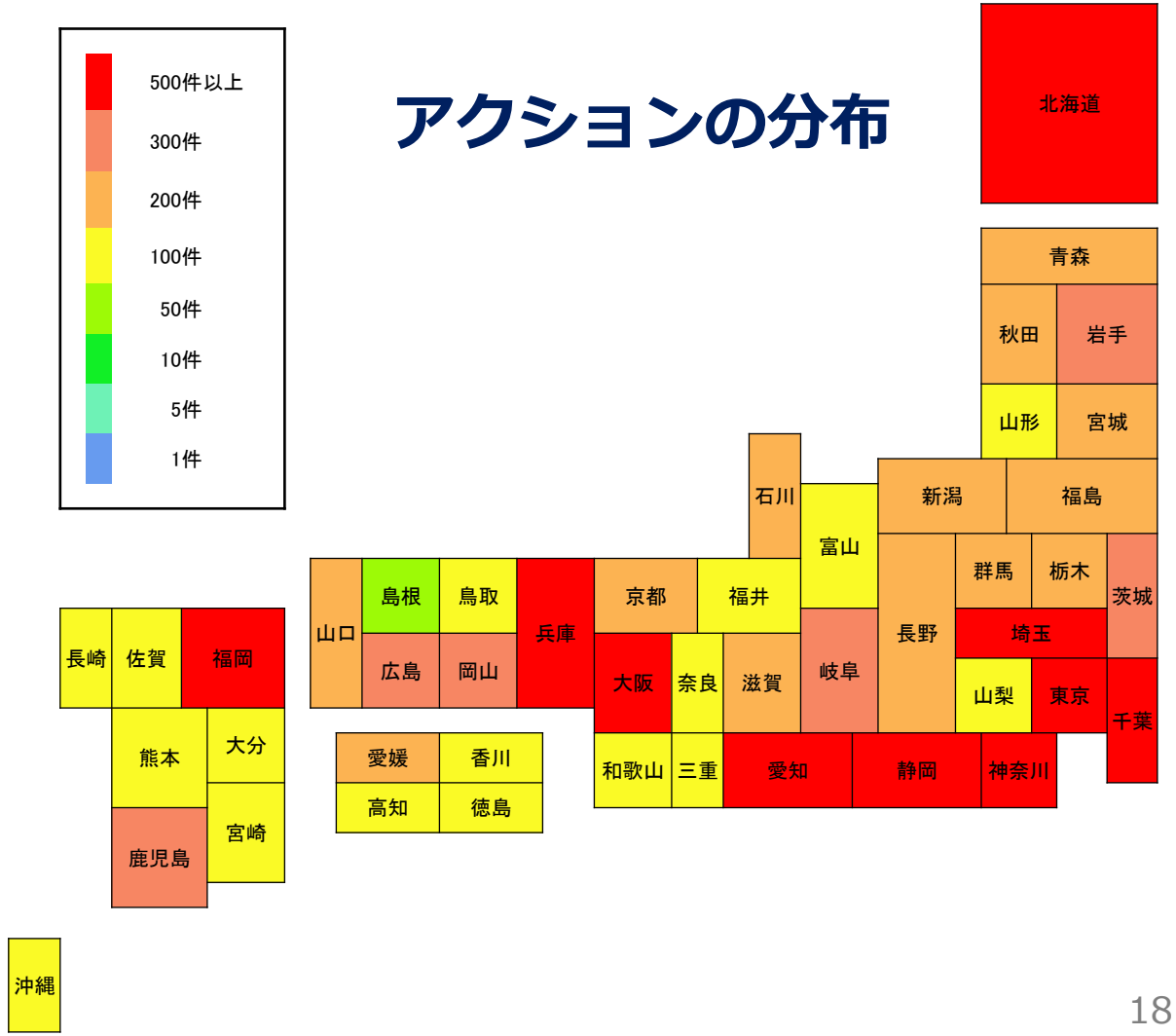
5．東京2020 Nipponフェスティバル

1．オールジャパンでの参画状況①

- 2018年1月10時点で、**1,000団体以上**が主体登録を実施し、**約２万件のアクション**を認証
- 全ての都道府県から主体登録※があり、全国へと拡がる認証アクションへの参加人数は**１千万人**



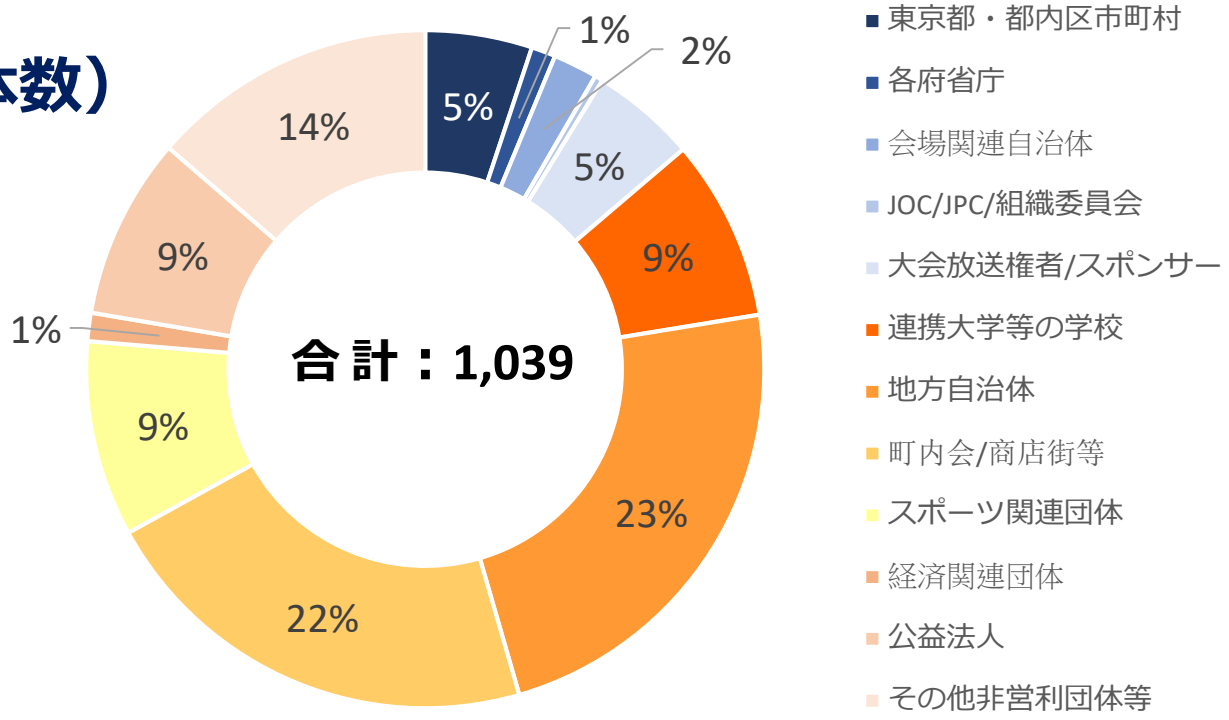
※都道府県に所在する団体からの主体登録



1．オールジャパンでの参画状況②

- 応援プログラムの本格開始後（2017年７月～）、全国の市町村や町内会等からの主体登録数が拡大
- よういドン！スクールについても、開催都市、会場関連自治体のみならず全国へ拡大中
（1月10日時点の認証校数： **4,589校**）

主体登録数（団体数）



※各データは2018年1月10日時点の認証数

2．参画プログラムの更なる活性化に向けて①

■マスコット投票宣言

- 域内の小学校等へマスコット投票への参加を促進しようとする地方自治体の取組を東京2020参画プログラムとして認証
- 自治体名（○○は、マスコット投票宣言に参加します）が記入された参画プログラムマークを提供

11/6「マスコット投票宣言」キックオフイベント
（青森県三沢市、東京都渋谷区、岡山県玉野市、福岡県北九州市）

2．参画プログラムの更なる活性化に向けて②

■ホストタウンの活動の参画プログラム化

- ホストタウンに登録された自治体に、より東京2020大会とのつながりを持ちながら事業を推進してもらえるよう、内閣官房にてホストタウンに登録された自治体による要件を満たすイベント・事業を**「ホストタウンアクション」として、東京2020参画プログラムに認証**

  例）大会等に参加するために来日する選手等との交流
  日本人オリンピアン又はパラリンピアンとの交流
  相手国との文化的交流を図り、地域の活性化を推進するイベント　等

- **ホストタウンアクションに作成された参画プログラムマーク**を提供

３．東京2020主催アクション①（マスコット投票）

大会とつながる

教　育

マスコット小学生投票

マスコット最終候補３案

ア　　イ　　ウ

12/7 発表会の様子

- 2017月12月7日、渋谷区の加計塚小学校において、マスコットの最終候補案３案を発表
- 発表された３案については、12月1日のマスコット審査会において制作過程の確認及び国内・国際商標調査がすべて完了したものとして、承認を得たもの

３．東京2020主催アクション①（マスコット投票）

大会とつながる

- 2017年12月11日より、全国の小学校の各クラスを舞台とした**マスコット小学生投票がスタート。**投票は2018年２月22日まで実施し、2月28日に投票結果を発表予定。正式発表は８月頃予定。
- 各小学校の現状の参加状況　(2018/1/22時点)

１３,２２８校が事前登録
４，２１９校が投票を実施
１８５自治体が全校投票宣言を実施

東京都飛田給小学校の様子

東京都けやきの森小学校の様子

福島県吉井田小学校の様子

３．東京2020主催アクション②（メダルプロジェクト）

大会とつながる

持続可能性

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

プロジェクトの現状

回収拠点と実績（2017年４-10月累計）

ＮＴＴドコモ：約178万台の携帯電話等（全国約2,400店舗のドコモショップ）

自治体　　：約1874トンの小型家電（全国1262自治体、全国累計6023か所）

- オリンピック・パラリンピック大会史上初の取り組みとして国内外で反響
- 2017年４月の開始以降、参加自治体数も順調に増加、全自治体の約7割が参加
- 回収は概ね想定どおり
- 今後の対応として、引き続きプロジェクトの周知・PR活動を行うとともに銀をより多く含むPCなどの回収強化にも取り組んでいく

3．東京2020主催アクション②（メダルプロジェクト）

大会とつながる

回収手法の拡大

全国ドコモショップや自治体窓口での回収に加え、企業からの業務用小型家電提供や小型家電の一般廃棄物からのピックアップなど、回収手法を拡大

全国のドコモショップ等での回収

店舗数：
全国約2,400店舗

参加自治体での回収

参加自治体：約1,200自治体
※2017年12月現在

小型家電リサイクル認定事業者：46社

回収手法拡大

＋

企業からの提供（2017年8月～）

Tokyo2020パートナー企業等
計38,000台

＋

ピックアップ回収開始（2017年10月～）

一般廃棄物から使用済み小型家電を
ピックアップ

３．東京2020主催アクション②（メダルプロジェクト）

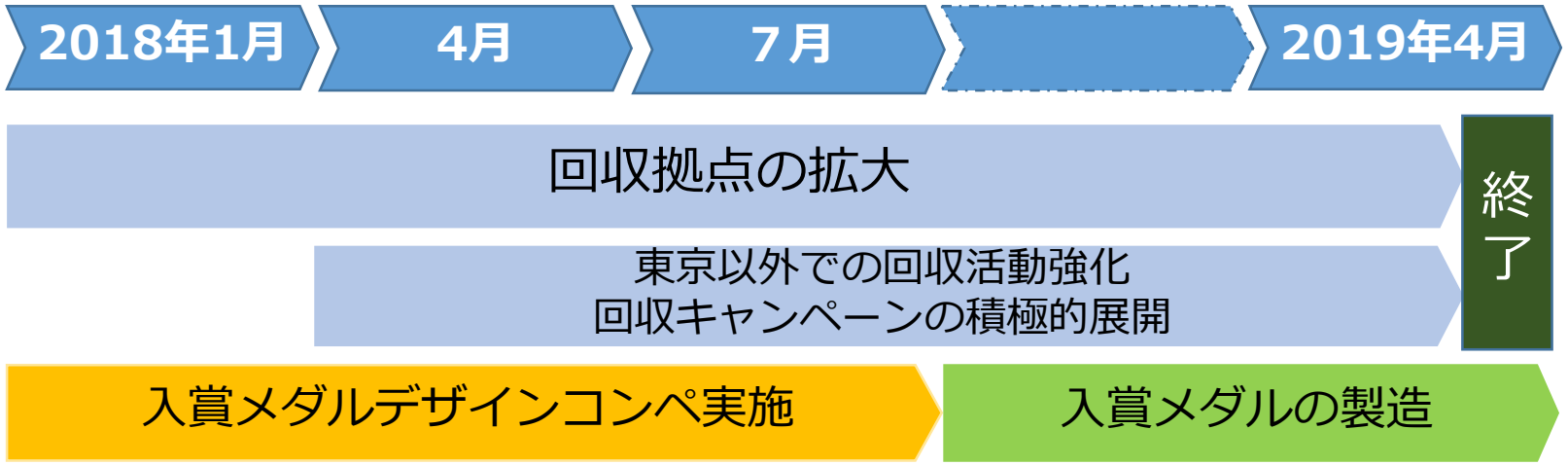
大会とつながる

今後の活動について

■ ＰＣ等、携帯電話以外の小型家電の回収強化
- 回収拠点の拡大（自治体以外での回収拠点の増加）
- 東京以外での回収活動強化
- 回収キャンペーンの積極的展開　（年末大掃除、お引越しキャンペーン等）

■ **12月20日からメダルデザインコンペを開始。本プロジェクトも新たなステージへ**

【スケジュール（イメージ）】



3．東京2020主催アクション③

大会とつながる

文化
オリンピアード

文化オリンピアードナイト

〇実施日：2017年11月26日（日）　〇場所：　東京駅前　行幸通り

〇主　催：東京2020組織委員会、文化オリンピアードナイト実行委員会

〇後　援：東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会・東京ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会推進本部、文化庁、復興庁、東京都

〇内　容：

Part1　TOKYO2020 DIALOGUE

- **東京2020 Nipponフェスティバルに向けてのトークセッション**

【登壇者】市川海老蔵(東京2020組織委員会 文化・教育委員)、澤邊芳明(クリエイティブディレクター、東京2020組織委員会アドバイザー)、草刈民代（女優・東京2020組織委員会顧問）

【モデレーター】 宮本亜門（演出家）

Part2　TOKYO2020 ALL JAPAN CONCERT

- **2020年に向けて、「ALL JAPAN」で取り組むことをコンセプトに、多様なアーティストとオーケストラが、高校生や子ども達とともに作り上げるコンサート**

【企画・構成】 宮本亜門　【出演】ゆず（ミュージシャン）、森谷真理（ソプラノ歌手）、宮本笑里（バイオリニスト）、鈴木瑛美子（ゴスペルシンガー）、MIYAVI（ミュージシャン）、大前光市（義足ダンサー）、上田秀一郎/ はせみきた（太鼓：英哲風雲の会）、玉野祥太/ 三浦桜來（空手家ダンサー）福島県立福島明成高等学校合唱部、宮城県石巻好文館高等学校音楽部、東京都立狛江高等学校ダンス部、インターナショナルスクールの子ども達

4．アクション事例（オールジャパン・世界への発信）

地域でつながる

オールジャパン・世界への発信

スイス連邦とのホストタウン交流事業「アルプスの少女ハイジとスイス展」

ホストタウン事業と連携したアクション①

〇実施日：2017年7月30日（日）～8月8日（火）
〇主　催：福島市、東京2020ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会福島市推進協議会
〇後　援：スイス大使館、スイス政府観光局
〇内　容：**パネル展によるスイス紹介及びハイジの物語紹介、トークショー、記念撮影コーナー等**
〇参加数：3,066人

【主催者報告】

10日間で3000人を超える来場者があり、様々な世代の方に対し、本市のホストタウン交流相手国となったスイス連邦について身近に感じ、文化や風土を学ぶ機会を提供することができた。

また、スイス大使館やスイス政府観光局の方々にオープニングイベントに参加していただいたことで、本市の情報を発信し、継続した交流事業を行うための関係を作ることができた。

オール
ジャパン・
世界への
発信

ホストタウン南アフリカ紹介＆ラグビー体験
～東京オリンピック・パラリンピックに向けた1000日前イベントin町田～

ホストタウン事業と連携したアクション②

〇実施日：2017年11月12日（日）
〇主　催：町田市
〇協　力：町田市ラグビー協会、南アフリカ共和国観光局
〇内　容：**ラグビー体験（パスターゲット）、南アフリカ文化紹介（パンフレット配布や音楽BGM等）**
〇参加者：700人

【主催者報告】
・町田市が南アフリカ共和国のホストタウンであることをご存じない方も多くいたが、パンフレット・音楽等を通じて広くPRできた。
・ラグビー体験でも子供だけでなく、大人を含めた多くの方に参加いただき、東京2020大会やRWC2019に向けた機運醸成につながった。

4．アクション事例（オールジャパン・世界への発信）

未来につながる

オール
ジャパン・
世界への
発信

東京2020ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸで何が変わる？何を変える？

〇実施日：2017年8月25日(金)・9月8日(金)・23日(土)・10月24日(金)
〇主　催：青梅市、青梅市教育委委員会
〇内　容：**東京2020大会のレガシーについて、講演会とワークショップ等を通じてその考え方や具体的な取り組みについて知り、住民レベルで自分たちにできることを考える。**
〇参加者：106名

【主催者報告】

・様々な分野で活躍する地域住民が集い、東京2020大会を契機とした地域活動について学びあうことができた。
・特にオリンピック・パラリンピックの3大キーワードとして挙げられる『レガシー』『サスティナビリティ』『ダイバーシティ＆インクージョン』について知ってもらい、参加者自身と東京2020大会を関連付けることができたと評価している。

4．アクション事例（復興）

地域でつながる

復　興

未来（あした）への道　1000 km縦断リレー2017

〇実施日：2017年7月24日（月）～8月7日（月）　全15日間
〇主　催：東京都、(公財)東京都スポーツ文化事業団
〇共　催：(公財)東京都体育協会、(公財)東京陸上競技協会
〇後　援：関係各県、関係省庁、スポーツ関連団体　他
〇協　力：コース沿道市区町村（73自治体）他
〇内　容：**青森県～岩手県～宮城県～福島県～茨城県～千葉県～東京都までの走行距離1,230.2Km、145区間をリレー**
〇参加者：1,624人（走行者数）

【主催者報告】

・若者から年配の方、障害者や外国人を含む多くの方々に参加していただき、交流を深めることができた。また、地元の若者の演出により、盛上げ、賑わいを創出できた。
・メディアへの呼びかけや海外プレスツアーなどの実施により、国内外で復興へ向けた取組などを発信することができた。
・熊本地震の被災地から学生を招待し、東日本大震災の被災地の方々と交流の機会を創出することで、それぞれの復興支援を後押しすることができた。

4．アクション事例（復興）

未来につながる

復　興

「ふくしまアイデアコンテスト」

〇実施日：2017年10月28日（土）
〇主　催：ふくしまアイデアコンテスト実行委員会
〇主　管：福島大学地域スポーツ政策研究所
〇共　催： 福島県、福島県教育委員会
〇協　力：学生団体わだち、学生団体おりがみ
〇内　容：**高校生・大学生を対象に、野球・ソフトボール競技の一部福島県開催を契機とした福島県の盛り上げやレガシー創出のためのアイデアを競う。**

【主催者報告】

＜最優秀賞＞会津伝統野菜を未来へ（福島県立会津農林高校農業園芸科）
＜優秀賞＞温泉地で新しい温泉卓球の検討（会津大学短期大学部幼児教育学科）

・当日は事前にエントリーした10組の高校・大学生たちが熱意あふれるプレゼンを行い、東京2020大会の盛り上げやレガシー創出に向けたアイデアを競った。
・<u>大学生による学生団体が中心となって企画・運営を行い、若い世代が東京2020大会に積極的に関与していく機会となった</u>。

５．東京2020 Nipponフェスティバルについて

東京2020大会におけるフェスティバルの位置づけ

2017年 | 2020年4月頃 | 7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる大会に向けた機運醸成

東京2020 Nipponフェスティバルの展開

- 大会の盛り上げを最大化
- 歴史に残るプロジェクト
- 様々なステークホルダーの参画
- 国内外への発信

聖火リレー

東京2020大会 開会式 閉会式

※写真右：©篠山紀信 「東京キャラバン in 六本木」

フェスティバルの名称について

東京2020大会

オール
ジャパン

祝祭感

“ 東京2020 Nipponフェスティバル ”

読み：トーキョーニーゼロニーゼロニッポンフェスティバル

東京2020大会とロンドン2012大会との対比

	東京2020大会	ロンドン2012大会
名称	東京2020 Nipponフェスティバル	London 2012 Festival
会期	2020年4月頃～9月6日	2012年6月21日～9月9日 （約12週間）
プログラム数	東京都・政府をはじめ 地方自治体等との連携により 全国で多くのプログラムを展開予定	約300プログラム
聖火リレーとの連携	連携によりプログラムを 全国へ展開	なし

フェスティバルが目指す姿

参　画	■ 文化の祭典として、全ての人々が日本代表として参画でき、祝祭感のあふれるフェスティバルを目指します。
日本らしさ	■ 脈々と続き、洗練されてきた私たちの文化を、オリンピック・パラリンピックの精神と共に様々な形で世界に示します。
卓越性	■ オリンピック・パラリンピックならではの、前例にとらわれないプログラムを展開し、世界を驚かせます。
多様性	■ 障がいの有無や人種の違いなど、それぞれの個性を認めた上で、分け隔てのない社会を目指します。
レガシー	■ 新しいパートナーシップの誕生や若いアーティストの台頭、海外における日本のプレゼンス向上等、大会後のレガシーを創出します。

今後コンセプト（キャッチフレーズ等）を制作予定　(例) Have Fun！

４つの物語①：聖火リレーとともに始まる祝祭感　- キックオフ -

文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック

聖火とともに祝祭感あふれるプログラムを
オールジャパンで展開

～都道府県とも連携し、全国で実施～

※写真左：提供/Getty Images

４つの物語②：大会を象徴するプログラム　- 大会直前 -

※写真中：提供/Getty Images

４つの物語③：パラリンピックに向けた機運醸成　– パラリンピック直前 –

様々な背景を持つ人々が交じり合い

分け隔てのない社会を目指す

４つの物語④：誰もが参画できるフェスティバル

東京にいなくても
オリンピック・パラリンピックに参画できる
全員が日本代表

フェスティバルのロゴマーク制作について

ロンドン2012大会では…

ロンドン大会のマーク

左２つ：エンブレム　右：フェスティバルロゴマーク

- エンブレムから派生したロンドン2012フェスティバルのマークを制作
- 組織委員会のほか、参画した多くの団体がマークを使用し、全国への拡がりをみせた

▶東京2020大会では、
フェスティバルの象徴となり、
全国へ拡がりのあるロゴマークを目指す

▶エンブレムの制作者でもある
<u>野老朝雄（ところあさお）氏</u>に制作を依頼

検討スケジュール

2017年	2018年		
10月－12月	1－3月	4－6月	7月－

フェスティバルWG①

フェスティバルWG②

フェスティバルWG③

大会2年前

フェスティバル計画公表

①【政府・都との連携】
プログラムの連携・情報共有（日程・場所・分野の調整、共催の可能性の調整等）

②【地方との連携】
フェスティバルの全国展開の仕組みを検討（地方でのシンポジウム・連絡会等）

③公募事業者と主催プログラムについて検討・調整

IOC/IPCとの調整

IOC/IPCとの調整

平昌2018大会

資料３

小・中学生からのポスター企画

２０１７年度小・中学生からのポスター企画について

◆目的

・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、学校や子どもたちの大会への関心を高め、もって、大会の機運醸成を図る。

◆募集期間

・２０１７年７月～１０月

◆作品テーマ

・「～知ろう！観よう！応援しよう！～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に抱く私の夢」

※東京2020大会/オリンピックとパラリンピックの２部門を設ける

◆募集対象

・全国の小学生、中学生、特別支援学校小学部、特別支援学校中学部及び海外日本人学校に在学中の児童・生徒。

・小学校は5年生、中学校は2年生を基本的に対象とする。

◆募集方法

・学校ごと50作品に1作品を代表作品として提出

◆２０１７年度応募状況

・応募数：14,396点 代表作品数：645点 学校数：404校

２０１６年度応募状況（参考）

・応募数：26,292点 代表作品数：1,205点 学校数：649校

選考の流れ

学校から
代表作品の提出
【７～１０月】

一次選考
【12月】
組織委員会職員
による投票

最終選考
【1月】
メディア委員に
よる投票

表彰式【3月】

代表作品
６４５点

６２点
選定

金賞・銀賞・銅賞
約１８点
決定

A	小学校オリンピック部門応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品8点
B	小学校パラリンピック部門応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品8点
C	中学校オリンピック部門応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品8点
D	中学校パラリンピック部門応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品8点
E	特別支援学校小学部応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品4点
F	特別支援学校中学部応募作品より	金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品8点

表彰式について

【日程】
２０１８年3月３０日（金）午後

【会場】
パナソニックセンター東京（江東区有明）

【参加者】
各部門金賞受賞者、組織委員会関係者
オリンピアン、パラリンピアン（予定）

【会場について】
・オープンスペースで一般観衆もいる会場で実施
・表彰式後、競技種目や文化の体験・展示コーナー（パナソニックセンター東京内）を見学
・有明には複数の競技会場があるため、オリンピック・パラリンピックの雰囲気を感じられる立地

昨年度表彰式の様子

パナソニックセンター東京
オープンスペース

パナソニックセンター東京
２０１６年度優秀作品
展示の様子

※写真はパナソニック（株）より提供

作品の活用について

小・中学生の作品については以下の活用を想定

（１）組織委員会での活用
①組織委員会ホームページへの掲出
②各種イベントでの掲示
③組織委員会内での掲示

（２）自治体、パートナー等での活用
①自治体主催イベントでの掲示
②自治体広報等での活用
③パートナー関連施設での展示

組織委員会HP

組織委員会内の展示（９階）

パートナー企業での展示

自治体での展示

資料４

東京2020オリンピック・
パラリンピックまで、あと
1000日。

1000 Days to Go! の取組について

2018年1月22日

東京オリンピック･パラリンピック競技大会組織委員会　広報局

1000 Days to Go! の取組の全体像

2017年
10/28
日本橋イベント

共通メッセージ

1000 days to go!

【各ステークホルダーの参画を呼びかけ】

東京都 / 自治体 / 国 / 非営利団体 / パートナーA社 / パートナーB社 / パートナーC社 / パートナーD社 / Media / NF / JOC JPC

2017年
11/29
スカイツリーイベント

関係者へ1000日前を記念した事業実施と共通メッセージ活用を呼掛け、全国で機運醸成を行う。

1000日前関連プログラム

全国で実施の参画プログラムやパートナーアクティベーションを、1000日前関連プログラムとし、連携感を高めるとともに、キャンペーン特設サイト等を活用した広報支援を実施。

【1000 Days to Go!入りの参画プログラムマーク】

公認プログラム TOKYO 2020 TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES
1000 Days to Go!

TOKYO 2020 応援プログラム
1000 Days to Go!

【1000日前関連プログラムの対象】
①パートナーアクティベーション
②特設サイト掲載申請 or上記マーク使用の参画プログラム
③協力 or 共催名義付与プログラム

わたしの参加宣言キャンペーン

「みんなの1000日後の姿を宣言しよう！」をテーマに、Twitter、2020 IDを使ったオープンキャンペーンを実施。

スペシャル体験賞（計5名様）

①東京2020大会マスコットがやってくる！（1名様）
②東京2020大会メダル発表を目撃＆記念撮影！（1組2名様）
③選手と同じ食事が食べられる！（1組2名様）

オリジナルグッズ＆パートナー賞（合計1,000名様）

1000 Days to Go! ピンバッジ+パートナー提供賞品のセット

みんなのエンドロール賞（最大1,000名様）

組織委員会公式Youtubeにて公開の「1000 Days to Go! オフィシャルムービー」のエンドロールに、参加者のお名前を掲載

TOKYO 2020 1000 days to go!

東京2020オリンピックカウントダウンイベント「みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!」

日 時 2017年10月28日（土）14時30分から16時

場 所 東京・日本橋中央通り

主 催 東京2020組織委員会、東京都

出演者 アスリート：三宅宏実選手/ 入江陵介選手 /髙藤直寿選手 / 寺本明日香選手

スペシャルゲスト：市川 海老蔵 （2020文化・教育委員）

内 容 ステージイベント（カウントダウン・デーカウンターお披露目等）、

初採用種目デモンストレーション、他事業連携（ラグビー等）、パートナー連携事業

※同日、JOCコンサート、日本橋シティドレッシングを連携して実施

来場者 約15,000人

取 材 取材メディア数　55社　155人

オープニングを飾る山車の
練り歩き（地元町会）

カウントダウン・デーカウンター
のお披露目

アスリート、ゲストによる
初採用種目体験

東京2020パラリンピックカウントダウンイベント「みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!」

日 時 2017年11月29日（水）12時から20時

場 所 東京スカイツリータウン®スカイアリーナ

主 催 東京2020組織委員会、東京都

出演者 アスリート： 一ノ瀬メイ選手 / 髙桑早生選手 / 豊田まみ子選手 / 古澤拓也選手 / 正木健人選手
スペシャルゲスト：YOSHIKI

内 容 「1000 Days to Go!」映像の上映、アスリートとYOSHIKIによるトークセッション、
東京スカイツリー®のライトアップ、主催者・パートナー企業による競技体験会やブース展示、
JPCによる「I'm POSSIBLE」（IPC教材）を活用した児童向け特別講義　等

来場者 約30,000人

取 材 メディア数　64社　130人

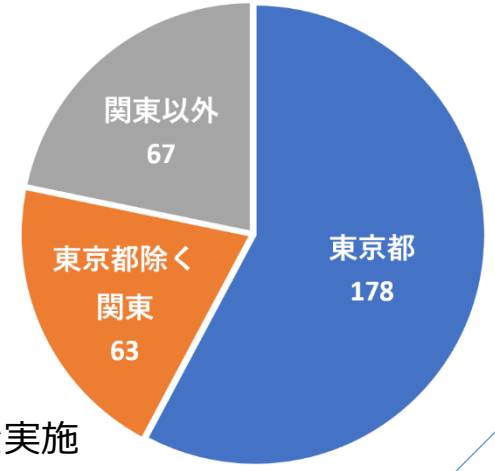
セレモニー

東京スカイツリー®と
山車のフォトセッション

YOSHIKIさんとアスリート

1000日前関連プログラムの実績

(1) 件数



全国で
合計308の
関連プログラムを実施

JXTGエネルギー
「ENEOSスポーツ
フェスティバル 2017 in根岸」

東京ガス
「豊洲ユニバーサルフェスタ」

※左より
YOYOGI CANDLE 2020実行委員会
（幹事社：NTT・NTTドコモ）
「YOYOGI CANDLE 2020」
読売新聞社・港区 「1000日前カウント
ダウンフェスタ～東京2000へ」
東武トップツアーズ 「1000 Days to
Go！in TOKYO SKYTREETOWN」

三井不動産
「日本橋シティ
ドレッシング」

(2) 大会パートナーが実施したプログラムの例

パナソニック
（パナソニックセンター東京）
1000日前特別イベント「1000日前」
への思い・今後実施の内容、エンブ
レム・新グラフィックスについて

日本電気 東京2020大会
1000Days to Go！
「さぁ、集まろうぜ。」

毎日新聞社
「世界は一つ～東京2020
オリンピック1000日前～」

青山スポーツフェス2017
実行委員会(朝日新聞社ほか)
「青山スポーツフェス2017」

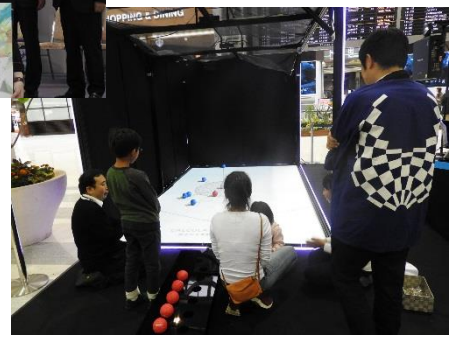
1000日前関連プログラムの実績

(3) 会場関連自治体が実施したプログラムの例

神奈川県・藤沢市
かながわで東京2020大会の感動をともに
～1000Days to Go!～

埼玉県・2020オリンピック・パラリンピック
ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会・
NHK（さいたま放送局）
埼玉で開催！1000日前イベント
～東京2020オリンピックに向けて～

千葉県
CHIBAにオリンピック・ パラリンピックがやってくる！
～東京オリンピック開催に向けた1000日前記念イベント～



北海道・札幌市
オリンピックが北の大地にやってくる！
～みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!～

ふくしまアイデアコンテスト
（主催）ふくしまアイデアコンテスト実行委員会
（主管）福島大学地域スポーツ政策研究所
（共催）福島県、福島県教育委員会

わたしの参加宣言キャンペーンの実績

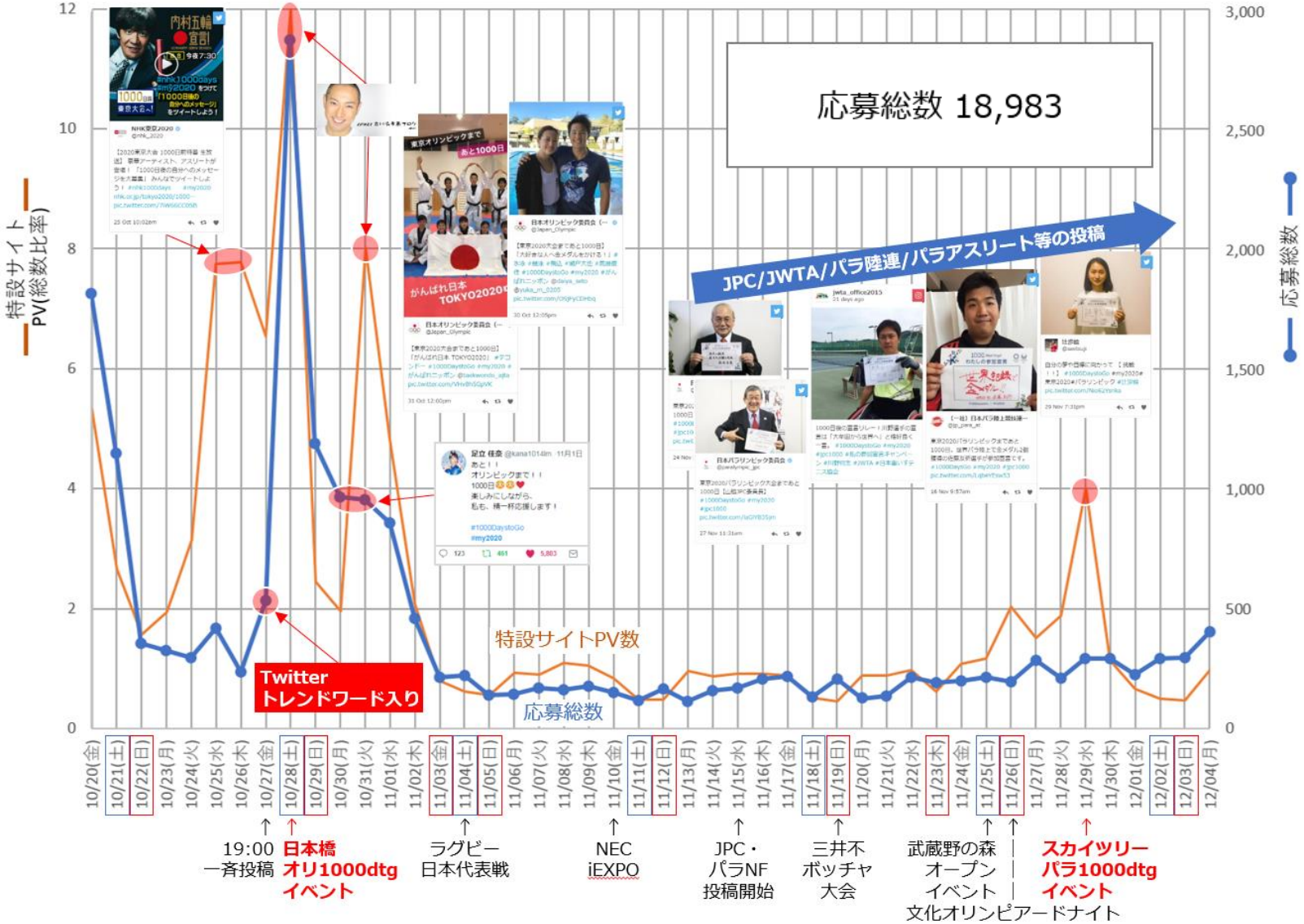
デジタル施策の展開

特設サイト

https://tokyo2020.jp/jp/special/1000daystogo/

一般から投稿された「わたしの参加宣言」を公開

期間中の応募件数、特設サイトへのアクセス推移



メディア掲載実績

(1) 報道状況

キャンペーンスタート時	主要紙他、スポーツ紙、通信社	83本
10/28・29	テレビ（地上波）	42番組
	海外報道（イギリス、フランス、ドイツ、中国、韓国、スペイン、タイ、ポルトガルなど）	33件 ※10/29～31
キャンペーン終了時	主要紙他、スポーツ紙、通信社	86本
11/29～12/7	テレビ（地上波）	62番組
	海外報道（イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、中国など）	104件

(2) 主要紙他に広告出稿したパートナー企業

トヨタ自動車株式会社

株式会社アシックス、 JXTGエネルギー株式会社、野村ホールディングス株式会社、
株式会社みずほフィナンシャルグループ

味の素株式会社、アース製薬株式会社、キッコーマン株式会社、KNT-CTホールディングス株式会社、
大日本印刷株式会社、東京地下鉄株式会社、凸版印刷株式会社、日本郵便株式会社、日本航空株式会社